くにたちえきひろ大学　第１回ワークショップ「駅前広場のみどりから 100 年後を考える」まとめ

〇日時

2024 年 7 月 14 日（日）13:30～16:30

〇場所

国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ

〇参加者

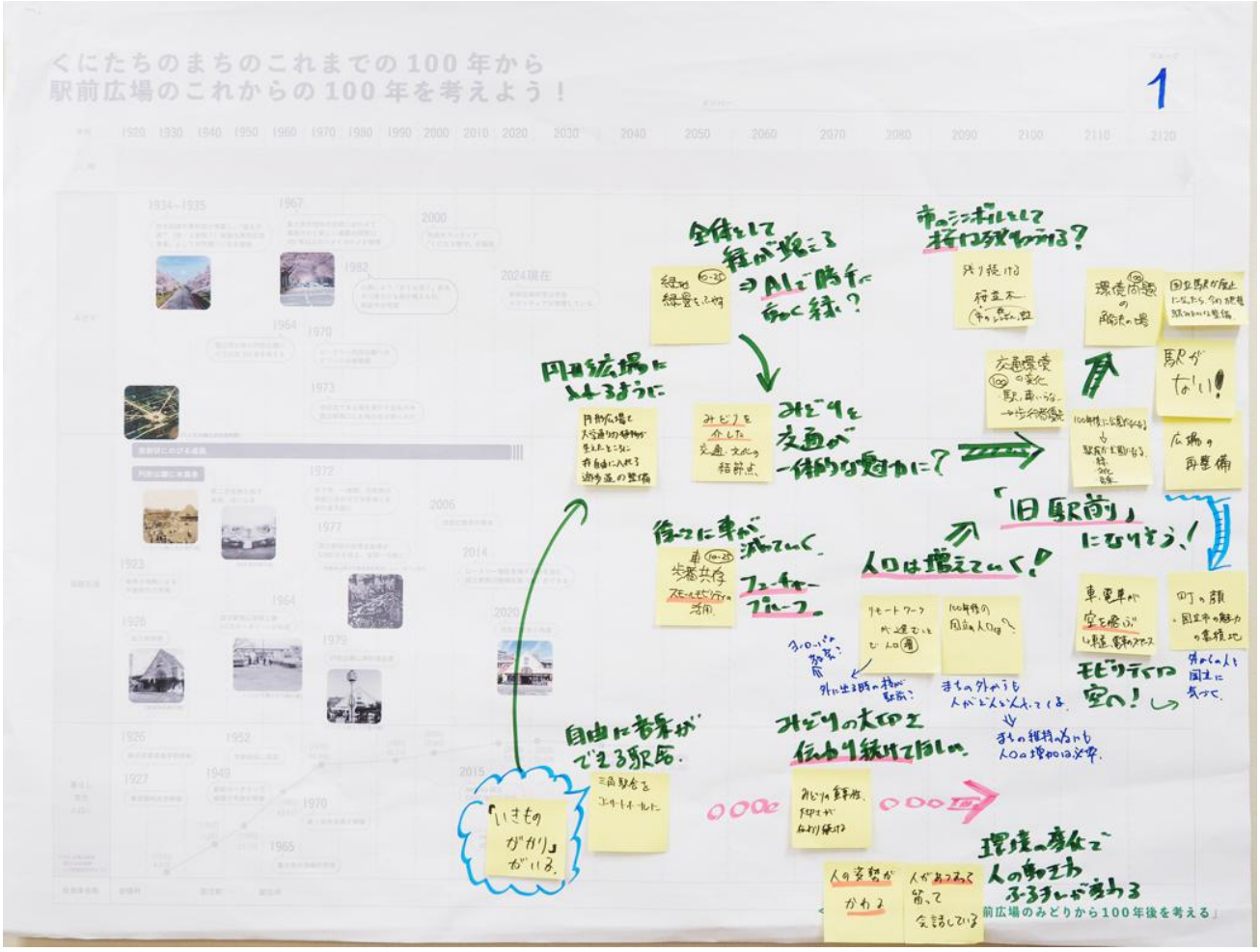
出席者 34 名（応募申込者 49 名、当選者 42 名）

〇実施概要

・全体を 3 グループに分けて、駅前広場（東西広場、円形公園等）の現地確認を行った。
・参加者へのインプットとして、ゲストの三島由樹さんから、講演いただき、合わせて JV メンバーとのクロストークを行った。
・「駅前広場のこれまでの 100 年から駅前広場のこれからの 100 年を考える」をテーマに、駅前広場の未来年表を検討した。また、年表の検討を踏まえ「駅前広場がこうなったら良いな」と思うことについて、平面図（プロポーザル案）を使いながら検討した。

〇当日の様子

［1G 年表まとめ］



1G 年表サマリー：みどりと交通の一体的な魅力づくりから、人のための空間へ。

全体としてみどりが増えていきながら、徐々に歩行者のための空間になり、それが一体的な魅力へとつながっていく。もしかしたら「駅」もなくなっているかもしれず、駅前がまちの顔になっていくような未来を想像しました。

	みどり	道路交通	暮らし・文化・人口
～2060	・みどりが増えていく ・みどりと交通が一体的な魅力に	・徐々に車が減っていく ・スモールモビリティの活用	・自由に音楽ができる駅前に
～2090	・市のシンボルとして桜は残る ・みどりの魅力は伝わり続ける	—	・人口は徐々に増えていく ・外に出るときの核が「駅前」になる
～2120	・駅前が公園になる ・環境問題解決の場になる	・モビリティは空へ ・駅がなくなり「旧駅前」に	—

みどり

～2060 年

●円形広場に入れるようになる

・円形広場と大学通りの植物が生えたところに自由に入れる遊歩道の整備
・「いきものがかり」がいる

●全体として緑が増える、AI で勝手に動く緑もある

・緑地、緑量を増やす

●みどりと交通が一体的な魅力になる

・みどりを介した交通・文化の帰結点

～2090 年

●市のシンボルとして桜は残り続ける

・残り続ける桜並木、市のシンボル、証

●みどりの大切さが伝わり続けてほしい

・みどりの重要性、大切さが伝わり続ける

～2120 年

・100 年後に公園がなくなるが、駅前が公園になる
・緑・文化・音楽が一体的に行われている場になる
・環境問題の解決の場になる

道路交通

～2060 年

●徐々に車が減っていく

・車、歩行者共存

●フューチャープルーフにより、スモールモビリティが活用される

・スモールモビリティの活用

～2120 年

●モビリティは空へ

・車、電車が空を飛ぶ
・車道、電車のスペース
・外からの人も空から国立に気づく

●「旧駅前」になりそう！

・駅がない！

・交通環境の変化により、歩行者優先で駅、車が不要になる

・国立駅が廃止になったら今の万世橋駅のように整備される

・広場の再整備により、街の顔、国立の魅力の集積地になる

暮らし・文化・人口

～2060 年

●自由に音楽ができる駅舎になる

・三角駅舎をコンサートホールに

～2090 年

●環境の変化で人の動き方、ふるまいが変わる

・人の姿勢が変わる

・人が集まって溜まって会話をしている

●人口は増えていく！

・リモートワークが進むことで人口が増える

・100 年後の国立の人口は？

・まちの外からも人がどんどん入ってくる

・まちの維持のためにも人口の増加は必要

●外に出るときの核が駅前になる

・ヨーロッパの教会のように、外に出る時の核が駅前になる

［1G 平面図まとめ］

［平面図アウトプット］

1G 平面図ポイント

［元写真］

［全体］

●人、商業の集積地になっている
●樹木が育ち国立駅が隠れるようになっている
●モビリティは空になっている
●遊歩道を活用している
●自転車も使いやすい駅前のロータリーになっている
●みんながピクニックをしたり休んだりできる緑の広場になっている
●池を淀ませない川のような流れがある

［東西広場］

●夜でも楽しめる照明がある
●リモートワークの拠点になっている
●教会広場のように集まりたくなる場所になっている

［円形公園］

●国立駅前が矢川や野川などの水の結節点になっている
●いきものがかりとしょくぶつがかりがいる

［2G 年表まとめ］

2G 年表サマリー：駅前は人のための空間に。100 年前に回帰していく

現代の環境においては、利便性も大事な視点。一方で、交通環境の変化を軸に、駅前は人のための空間へと姿を変えていきます。その視点では 100 年前の駅前に回帰する一方で、人の手がしっかり入り、また旧国立駅舎は残るなど、歴史の積み上げがわかるような駅前の未来を想像しました。

	みどり	道路交通	暮らし・文化・人口
～2060	・増えていくみどりを仕事として管理するコミュニティがある	・利便性も大切にしたい ・車の量は少なくなる	・通学路など安心していける場所にトイレがある
～2090	―	・人の力で移動する	・駅周辺に個性的なお店の数が増えていく
～2120	・駅全体が原っぱではなく、公園になっている	・移動は自動運転の新交通が主流になる ・旧国立駅舎は、100 年後もシンボルとして残る	・目的を求めて簡単に移動できるような生活になる ・駅前が目的地になる

みどり

～2060 年

●増えていくみどりを仕事として管理するコミュニティがある

・維持、管理をするコミュニティがある

・仕事として管理する

～2120 年

●原っぱではなく、駅全体が公園になっている

・生き物やみどりがいっぱい

・虫や鳥など生き物の循環がある

・国立駅前ならではの植物から特産品が生まれる

道路交通

～2060 年

●利便性も大切にしたい

・今の広場は車が運転しにくい

・車の乗りつけがしやすくなると良い

●車の量が少なくなる

・車が通るところが少なくなる

～2090 年

●人の力で移動する

・人力車で移動する

・自転車交通がメインになる

～2120 年

●移動は自動運転の新交通が主流になる

・自動運転の新しい移動手段

・電動キックボードを乗りこなす高齢者がいる

●旧駅舎は 100 年後も残る

・降りた時に国立駅の特徴がある

・国立駅前の歴史がわかる

●車から人のための空間になる

・100 年前の回帰

・円形公園で盆踊りがしたい

・ピクニックでお弁当が食べられる
・円形公園で自由に過ごせる、気軽に使える
・円形公園がイベント会場になる

暮らし・文化・人口

～2060 年

●通学路など安心して行けるところにトイレがある

～2090 年

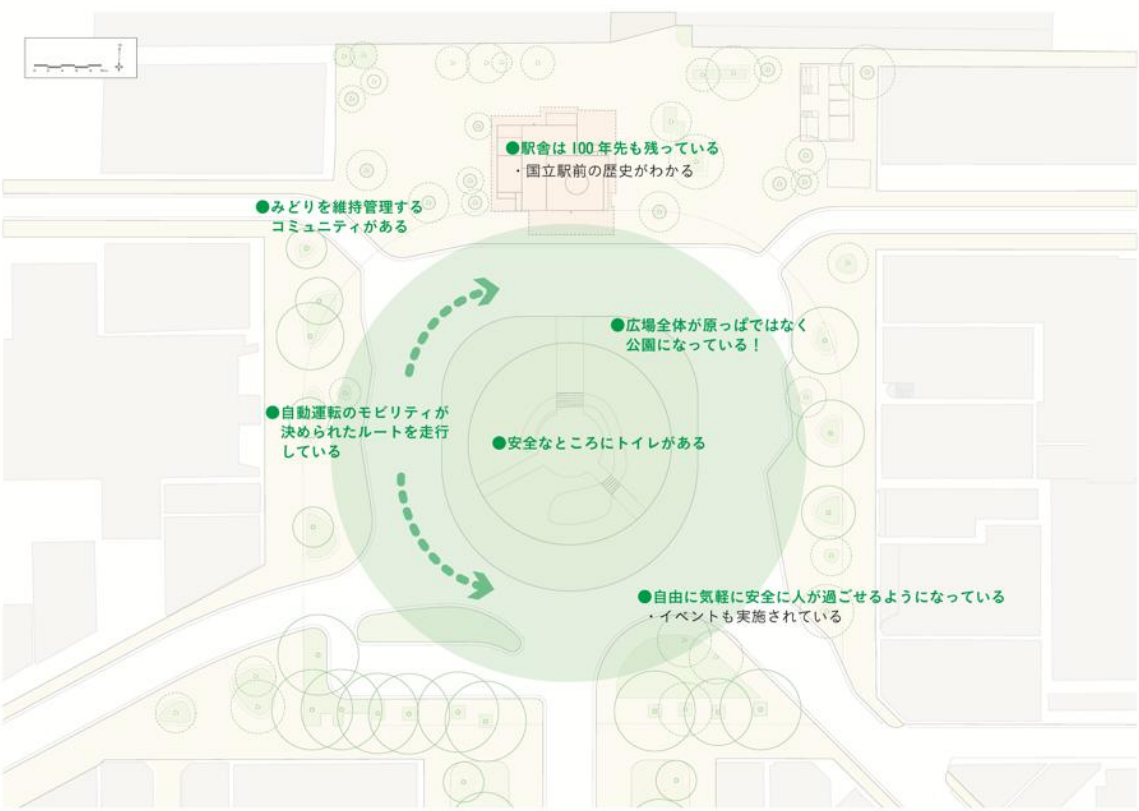
●駅周辺に個性的なお店の数が増えていく

～2120 年

●目的を求めて簡単に移動できるような生活になる

・大学通り LRT
・行きたいところに一瞬で行ける
・国立駅前が目的地として選ばれるようになる

［2G 平面図まとめ］



［平面図アウトプット］

2G 平面図ポイント

［元写真］

［全体］

●みどりを維持管理するコミュニティがある

●駅舎は 100 年先も残っている

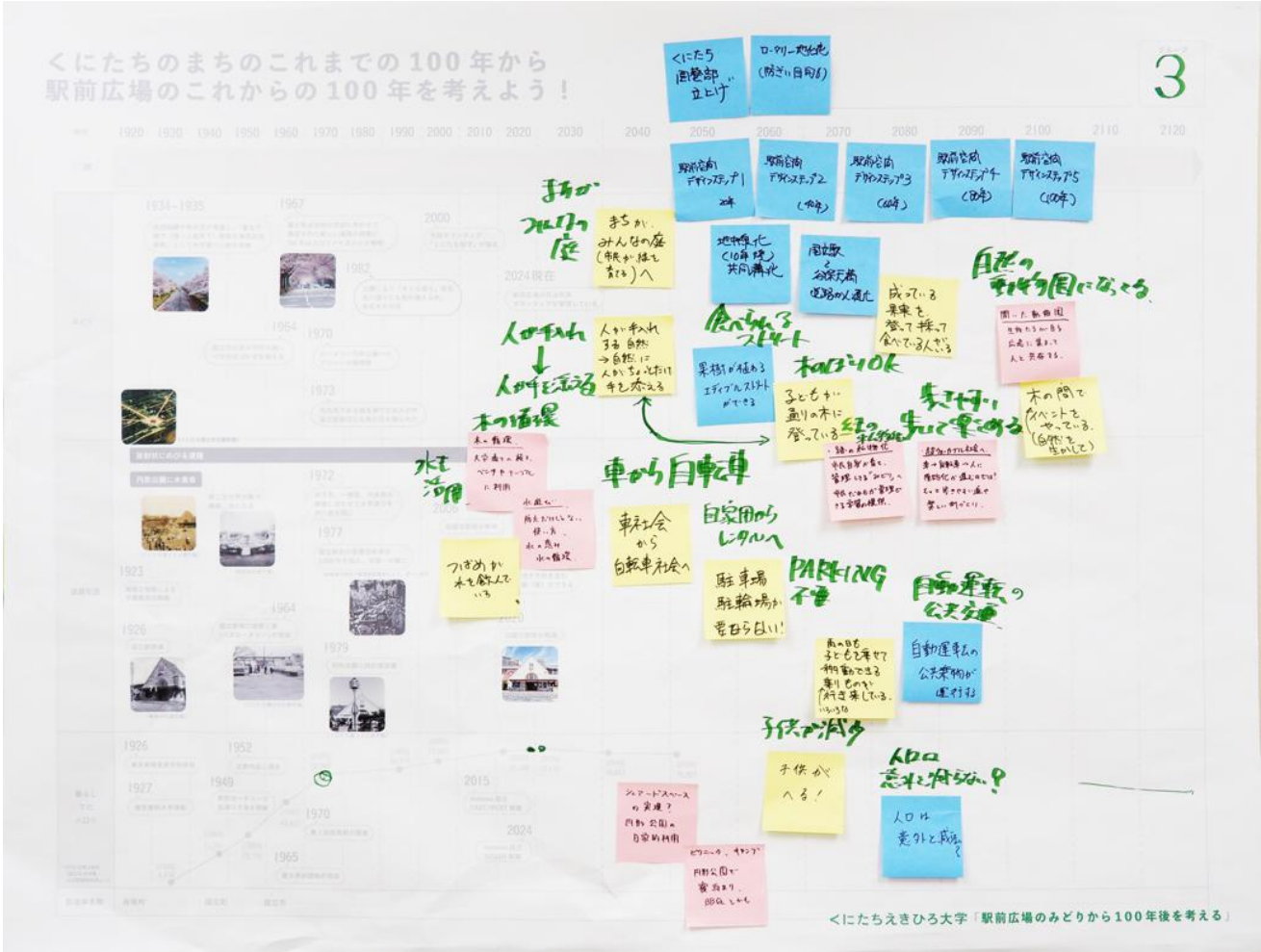
●自動運転のモビリティが決められたルートを運行している

●広場全体が原っぱではなく公園になっている

●安全なところにトイレがある

●自由に気軽に人が過ごせるようになっている

［3G 年表まとめ］



3G 年表サマリー：人のための空間整備から、人と生物が共存する駅前空間へ

車社会から自転車社会へと転換し、駅前広場のあり方は変化していきます。先の未来では、ロータリーの地下化など、人のための空間としてのハード整備が進みます。合わせてみどりを基軸にした様々な活動が生まれるソフトの仕掛けがあり、人と生物が共存しているような豊かな駅前の未来を想像しました。

	みどり	道路交通	暮らし・文化・人口
～2060	・「人が手を入れる」から「人が手を添える」へ ・食べられるストリートがある ・こどもが通りの木に登っている	・車社会から自転車社会へ ・円形公園が日常利用されている ・自家用車からレンタルが主流になり、パーキングが不要になる	―
～2090	・みどりが私物化されている	・自動運転の公共交通が運行 ・ロータリーが地下化している	・子どもの数が減る ・人口は意外と減らない
～2120	・人と動物が共存する自然の動物園になっている	―	―

みどり

～2060 年

●まちがみんなの庭になる

・まちがみんなの庭（市民が緑を育てる）へ

・くにたち園藝部立ち上げ

●「人が手入れする」から「人が手を添える」へ

・人が手入れする自然から、自然に人がちょっとだけ手を添えるようになる

●食べられるストリートがある

・果樹が植わるエディブルストリートがある

・成っている果実を登って採って食べている人がいる

●子どもが通りの木に登っている

・木登り OK

・子どもが通りの木に登っている

●木が活かされ、循環している

・大学通りの桜をベンチやテーブルに利用する

・水遊びなど、池の水が防火だけではない使い方ができる

●水が活用されている

・水の恵み、水の循環がある

・つばめが水を飲んでいる

～2090 年

●緑が私物化されている

・市民自身が育て、管理しきる「みどり」へ

・市民誰もが管理できる学習の提供

～2120 年

●人と動物が共存する自然の動物園になっている

・生物たちが自ら広場に集まって人と共存する

・自然を活かして、木の間でイベントをやっている

道路交通

～2060 年

●車社会から自転車社会になる

・車社会から自転車社会へ

・シェアードスペースの実現

●円形公園が人のために日常利用されている

・円形公園の日常的利用

・ピクニックやキャンプ、円形公園で寝泊まり、BBQ とかも

●自家用車からレンタルが主流になり、パーキングが不要になる

・駐車場、駐輪場が要らない

●電線が地中化される

・地中線化（10 年後）共同溝化

●国立駅と谷保天満宮の道路が貫通化する

・国立駅と谷保天満道路貫通化

～2090 年

●自動運転の公共交通が運行している

・雨の日も子どもを乗せて移動できるいろいろな乗りものが行き来している

・自動運転の公共乗物が運行する

●ロータリーが地下化している

・ロータリー地下化（防犯目的も）

暮らし・文化・人口

～2090 年

●子どもが減少する

・子どもが減る

●人口は意外と減らない

・人口は意外と減らない

その他

●100 年までに 5 つのステップを踏む

・駅前空間デザインステップ 1（20 年）

・駅前空間デザインステップ 2（40 年）

・駅前空間デザインステップ 3（60 年）

・駅前空間デザインステップ 4（80 年）

・駅前空間デザインステップ 5（100 年）

［3G 平面図まとめ］

［平面図アウトプット］

3G 平面図ポイント

［元写真］

［全体］

●参加型のオリジナルプロダクトアートのコンペなどが実施できる空間があり、まちのクリエイティビティが上がっている

●駅を出たときの驚きがある

●夜景のおしゃれな演出がある

●交換ステーションになっている

●駅前では生鮮食品が買える

●週末は気軽に使える、集まれる

●自然や生き物に触れ合える

●こどもが集まって遊べる、不登校の子も集まる、ペットも遊べる

●モビリティが発展し、運送が効率化され、歩道や広場が増えている

●お店が歩道にはみ出して OK（キッチンカーNG）

●月１回歩行者天国になっている

●直接地下駐輪場にアクセスできる

●大学通りと一体につながっている

●大人が屋外で仕事やカフェができる

［4Ｇ年表まとめ］

4Ｇ年表サマリー：生き物やみどりが感じられ、災害やエネルギーに対応した、暮らしの駅前空間へ

ゆっくり歩いても心地が良い、歩行者中心の空間へと変化していきます。また、生物との共生、防災性の向上（防災拠点化）、エネルギーシェアへの対応など、暮らしやすさにつながる、駅前空間のあり方を想像しました。

	みどり	道路交通	暮らし・文化・人口
～2060	・防災（災害）に強いまちになる ・行政だけでなくみんなで管理することで、暮らす魅力になる	・車がなくても暮らせるまちの象徴になる ・自動運転化が進み、横断歩道が要らなくなる	・行くと楽しい遊び場がある ・オープンでみんなの目が行き届き、コミュニケーションが生まれる場所になっている
～2090	・珍しい野鳥「ツミ」が繁殖 ・自然の音が聞こえる	・エネルギーシェアに対応したロータリーになっている ・生き物がいながらも、防災拠点になっている	―
～2120	・若い木が常にある	・大学通りは飛行機の滑走路に	・学園都市の基地になっている

みどり

～2060 年

●防災（災害）に強いまちになる

・水とみどり貯蔵

●行政だけじゃなくみんなで管理することで、暮らす魅力になる

・地域で緑の管理をするまち

・人のつながりができる

～2090 年

●珍しい野鳥「ツミ」が桜並木で繁殖している

・桜並木で鷹の仲間「ツミ」が繁殖！

・他の生物が増えたら駅前にも来る

・豊かさの象徴

●自然の音が聞こえる

・鳥のさえずりが聞こえる広場

●背が高めの花があり、四季が楽しめる

・桜以外の季節の花が目立つようになる

・ひまわりなど、四季が楽しめる

～2120 年

●若い木が常にある

・今は倒木があったり、切ったりがあるので、ずっと常にみどりがある環境になっている

・樹木が一度に植え替えではないサイクルになり、100 年通じて多様な世代の樹木が生きている

道路交通

～2060 年

●車がなくても暮らせるまちの象徴となる

・車で暮らしにくいまち＝その方が暮らしやすい？

・タクシープールに一般車が多い

・ドライバーもストレス

●ゆっくり歩いていても心地よいまちになる、駅広、駅近は安心して歩けるようになる

・買い物も手軽に！

・車椅子でも歩きやすい

・ボケーっと歩ける公共スペースが多くある

・駅にアクセスする道の歩きにくさが改善し、歩きやすい道がある

・車も入ってくると、結局どちらも使いにくくなる

●自動運転化が進み、横断歩道がいらなくなる

・自動／半自動運転
・対災害用車両
・電動化／自然電力

～2090 年

●シェアドライブや助け合いが進んでいる

・トトロのネコバスの世界観が実現している

●エネルギーシェアに対応したロータリーになっている

・エネルギーのシェアも始まると思うので今のうちからその視点も入れて設備されると良い
・モビリティの多様化とエネルギー供給できるロータリーの実現
・バッテリーの倉庫、緊急時にも使える

●生き物がいながらも防災拠点になっている、災害があっても人が集まれる

・南海トラフ地震が発生、駅前に人々が避難しても被害が最小限
・他の地域の受け入れもできるように！

～2120 年

●大学通りは飛行機の滑走路になっている

暮らし・文化・人口

～2060 年

●行くと楽しい遊び場がある

・ベンチでゆっくりできる
・矢川プラスにある小山のイメージ
・円形公園が芝生でもよさそう
・陽が当たる安全な明るさ
・明るい、安全、楽しい

●人口減少に対応した、住んでもらう住み続ける子育てしやすいまちになっている

・「住みたい街ランキング」国立市が１位になる

●オープンでみんなの目が行き届き、コミュニケーションが生まれやすい場になっている

・オープンで皆の目が行き届く＝コミュニケーションが生まれやすい

●まちあるきが楽しめる標がある

・まち歩きのできる標があると良い
・まちや人に思いを馳せらえるようにスポット的に市民の声が聞けて、吹き込んでいけるような石標

みたいなものがあるといいなと思いました

～2090 年

●街・市民のイメージがオープンなところに変化する

・街・市民のイメージの変化→オープンなところ

～2120 年

●学園都市の基地になっている

・2124 年 7 月にグローバル化学園都市になる

・実験、チャレンジ、試み

・平和宣言は継続する

●井戸が復活している

［4Ｇ平面図まとめ］

［平面図アウトプット］

［元写真］

4Ｇ平面図ポイント

［全体］

●みどりや生き物が豊かになっている

●カフェスタンドやビアガーデンがあり、社交ができる

●まちにいる表現したい人が集える場がある

［東西広場］

●駅と一緒に防災の拠点になっている

●国立、多摩のマルシェが開催されている

●屋根がある広場になっている

［円形公園］

●ポテンシャルを活かして有効活用できるようにする

●身近に自然がある

［その他］

●駅前のにぎわいと対照にゆっくり過ごせる場になっている

［5Ｇ年表まとめ］

5Ｇ年表サマリー：「流域」でのコミュニティへの変化、駅前は人と人が交わる交流空間へ

駅前からまちへと広がるみどり、水と親しめる環境づくりを進めていきながら、暮らし方は流域でのコミュニティを中心としたものに変化します。それに合わせて、交通のあり方は変化し、駅前は人と人が交わる交流空間に変化していくような未来を想像しました。

	みどり	道路交通	暮らし・文化・人口
～2060	・駅がまちへと広がるみどりのデザインへ ・自然、水と関われる	・ロータリーの車道に車がたまれる空間がある ・大震災が起こり、地域の協力で駅前に行けば何とかなる	・交流人口が増えている
～2090	―	・車から人中心の空間へ、移動手段が変わっている	・駅前に人と人、人と自然、人と音楽が交わっている
～2120	・自治体の境がなくなり、流域でのコミュニティが大事になる	・大きなバスも不要になる	・集合住宅、ビルが不要に ・江戸時代並みに人口減少

みどり

～2060 年

●駅がまちへ広がるみどりのデザインへ

・駅前からまちへ広がるみどり

・駅前広場周りからまちへ人の意識を向けてまち全体に人を流す

●自然、水と関われる

・自然ともっと近く関われる場所になる

・自然豊か、歩行者が多い→一体になれないか？

・水に親しめる環境づくり

・ビオトープ

・水のまち国立（せせらぎ、ふんすい）

・国立には水に親しめる、子どもたちが楽しめる場所が少ない

～2120 年

●利己→利他＝well being 誰かだけの土地ではなくみんなのための土地であるべき

・国、人、自然、菌などの境界がグラデーションに変形する（例：変形菌ミクソヴァース）

●自治体の境がなくなり、流域でのコミュニティが大事になる

・流域で分かれる村づくり

・たてものが丘型

・用水路

道路交通

～2060 年

●大地震が起こる！防災、地域の協力があり、駅前に行けばなんとかなる

・2045 年（20～30 年後）大地震が起こる

・防災、地域協力、駅前に来ればなんとかなるように

●ロータリーの車道などに車がたまれる余白がある

・車がたまれる停車スペースなど余白がある、外から来た車も止まれる

・塾のお迎えの車

・ロータリーの車道にも余白をつくる

～2090 年

●車から人中心の街へ、移動手段が変わっている

・車が小さく、柔らかくなる

・人中心の街、電車、バス、電動アシスト自転車のシェア

～2120 年

●大きなバスも不要になっている

・バス停がなくなっても良い、駅広を想定する

・自動運転の移動手段がある

暮らし・文化・人口

～2060 年

●交流人口（観光）が増えている

・全国的に人口減少

・交流人口を増やしてみんなでまちづくり

・市外からもまちづくりに関われる

～2090 年

●広場に人と人、人と自然、人と音楽が交わっている

・駅前で人と人、人と自然、人と音楽が交わる

～2120 年

●人口が多かった時に作られた集合住宅、ビルが不要になる

・自然を増やしていく

・行政の区分けがなくなる

●江戸時代並みの人口に減る

・2120 年（100 年後）人口が減少している

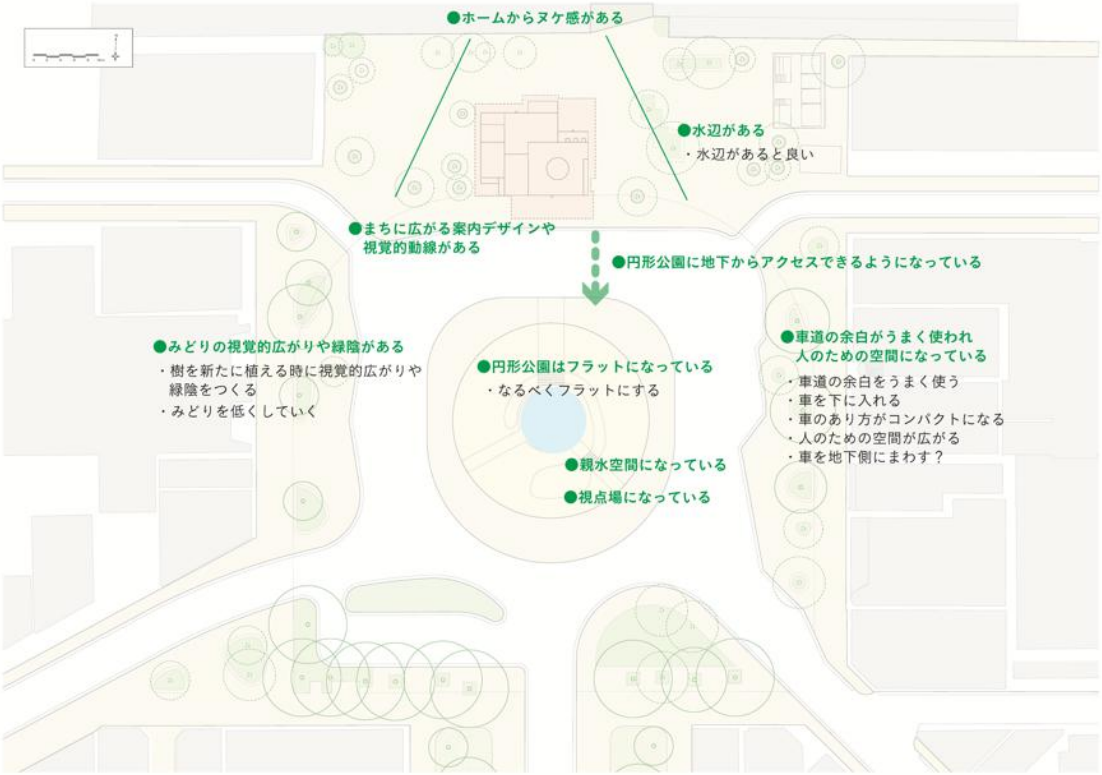
・タワーマンションなどが負の遺産になる

・人口密度が下がる

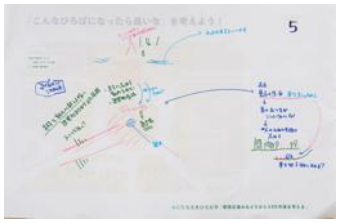
・ゆとりが生まれる

・車が減る

［5Ｇ平面図まとめ］



［平面図アウトプット］



［元写真］

5Ｇ平面図ポイント

［全体］

●ホームからヌケ感がある

●まちに広がる案内デザインや視覚的動線がある

●みどりの視覚的広がりや緑陰がある

●車道の余白がうまく使われ、人のための空間になっている

［東西広場］

●水辺がある

［円形公園］

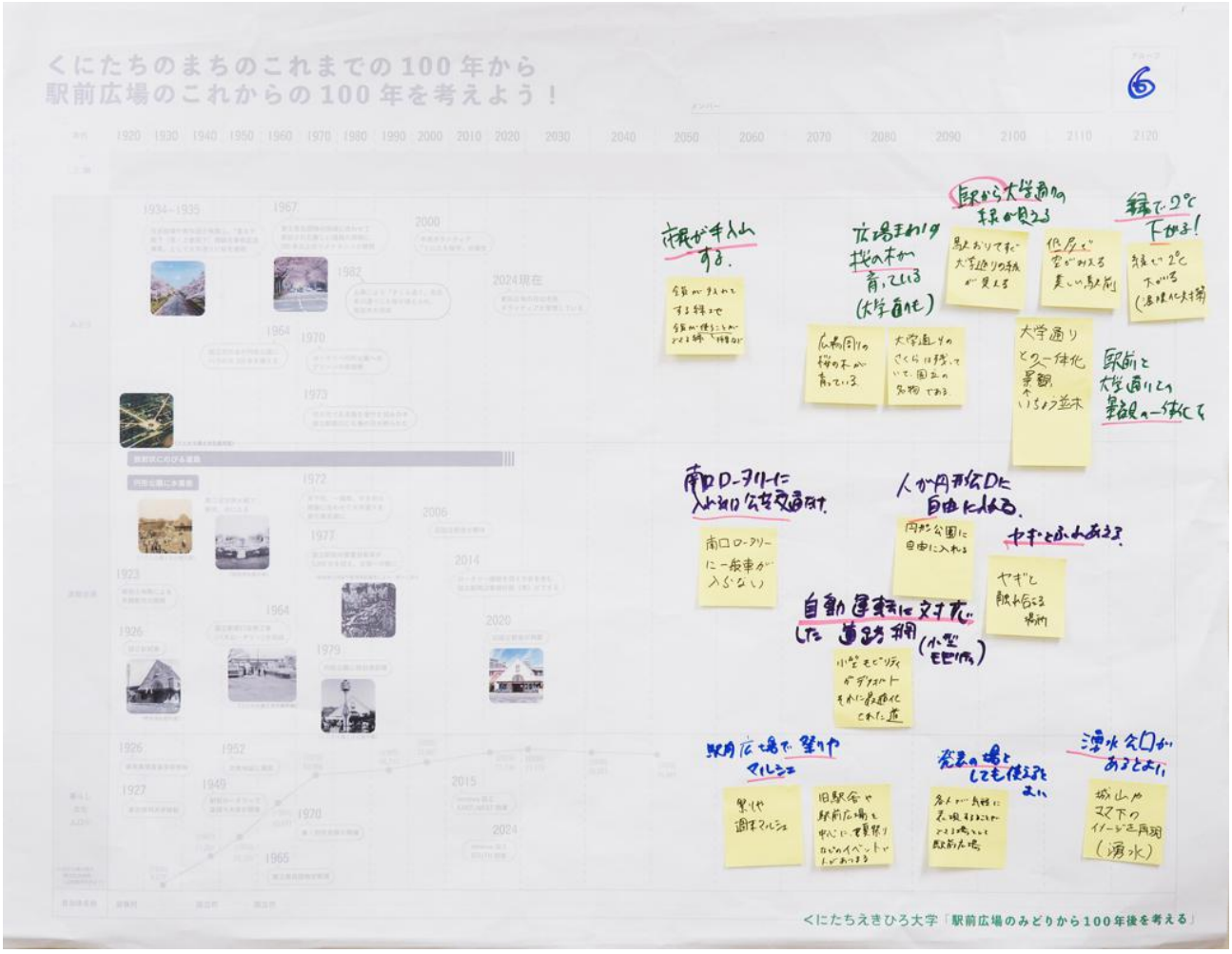
●円形公園はフラットになっている

●円形公園に地下からアクセスできるようになっている

●親水空間になっている

●視点場になっている

［6G 年表まとめ］



6G 年表サマリー：みどりが育ち、大学通りと一体の景観を形成し、人のための道路利用へ変化する

市民がみどりの手入れに関わりながら、みどりは育ち続け、大学通りと一体的な景観を形成しています。また、交通は公共交通や自動運転に対応した道路利用へと変化していきながら、人の活動が行われている駅前の未来を想像しました。

	みどり	道路交通	暮らし・文化・人口
～2060	・市民が手入れする	・ロータリーに入れるのは公共交通だけになる	・駅前広場で祭りやマルシェが行われている
～2090	・大学通り、広場廻りの桜の木が育っている	・自動運転に対応した道路利用 ・円形公園に人が自由に入れるようになっている	・発表の場としても使えるようになっている
～2120	・みどりで気温が 2℃下がっている ・駅前と大学通りとの景観が一体化している	・ヤギと触れ合える場所になっている	・湧水公園がある

みどり

～2060 年

●市民が手入れする

・全員が手入れをする緑地

・全員が採集などで使うことのできる緑

～2090 年

●大学通り、広場周りの桜の木が育っている

・広場周りの桜の木が育っている

・大学通りのさくらは残っていて、国立の名物である

～2120 年

●駅から大学通りのみどりが見える

・駅から降りてすぐに大学通りの緑が見える

・低層で空が見える美しい駅前になっている

●緑で 2℃気温が下がっている！

・緑で２℃下がる（温暖化対策）

●駅前と大学通りとの景観が一体化している

・大学通りとの景観一体化

・いちょう並木

道路交通

～2060 年

●南口ロータリーに入れるのは公共交通だけになる

・南口ロータリーに一般車が入らない

～2090 年

●自動運転に対応した道路活用がされている

・小型モビリティがデフォルト、それに最適化された道

●人が円形公園に自由に入れるようになっている

・円形公園に自由に入れる

～2120 年

●ヤギと触れ合える場所になっている

・ヤギと触れ合える場所

暮らし・文化・人口

～2060 年

●駅前広場で祭りやマルシェが行われている

・祭りやマルシェ

・旧駅舎や駅前広場を中心に夏祭りなどのイベントで人が集まる

～2090 年

●発表の場としても使えるようになっている

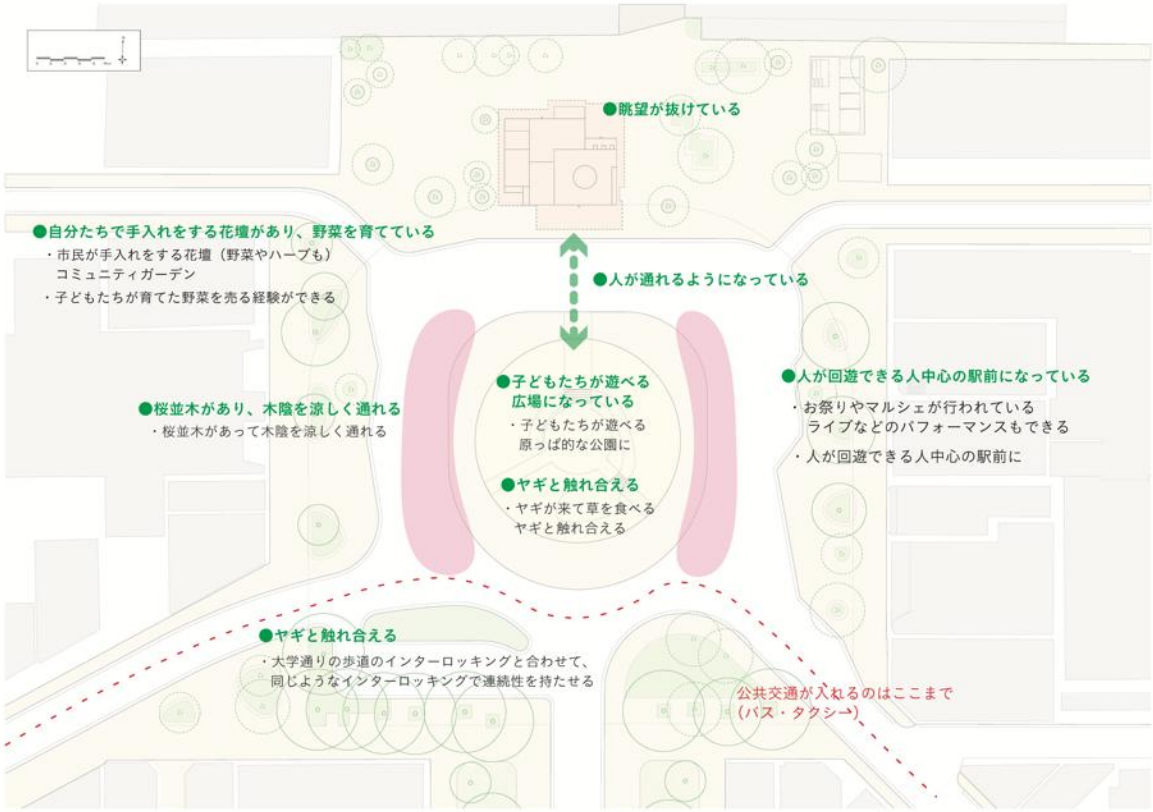
・各人が気軽に表現することができる場として駅前広場がある

～2120 年

●湧水公園がある

・城山やママ下湧水のイメージを再現

［6Ｇ平面図まとめ］



［平面図アウトプット］

6Ｇ平面図ポイント

［元写真］

［全体］

●眺望が抜けている

●自分たちで手入れをする花壇があり、野菜を育てている

●人が回遊できる人中心の駅前になっている

［円形公園］

●桜並木があり、木陰を涼しく通れる

●子どもたちが遊べる広場になっている

●人が通れるようになっている

●ヤギと触れ合える